

小さな太陽

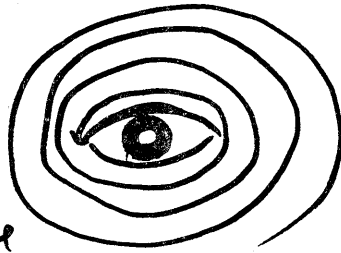
文と絵

柴岡治子

みなさん、眠る前に神様にお祈りをするでしょう。何を祈りしますか。

おばさんも子どもの時、寝る前にお祈りをしました。目をつぶって、頭を枕にうつぶせ、何をお祈りしようかなんてぼんやり考えているうちに、フツと両方の目の奥の方に赤い色がパツと出て来ることがありました。その赤い色には太陽のように中心があり、その中心から光が出ているようなかたちのものが見えて来るのです。おばさんは面白くなって、両方の目をもっときつく押すようにつぶると、今度は青やみどりや黄色やオレンジや、いろんな色に変わって来ます。それが面白くてお祈りの方は忘れてしまい、つぶった目の中に見える光をみることに夢中になりました。

でもそれがとても不思議で不思議で、困りました。だって



24

物や色が見えるのは目を開けている時、そして明るい時でしょう。それなのに枕に頭をつけ、目をつぶっていて真黒になつて何にも見えない闇の中に、突然いろんな色の小さな太陽のようなものが、パツパツと光るのです。時々細かい糸が、ゆるゆる模様のように、やはり色つきで出て来たりしました。

目のお医者さんに聞けば、そのわけはきつと解るのでしよう。

大人になって仲よしのお友だちに聞いてみたら、その人もその小さな太陽の光を、つぶった暗い目の中に見たことがあると言いました。

つぶった目の中に見えるものを見てみると、自分がとっても不思議な人間になって、どこか遠い国に行つて、輝くたからものを見ているような気持ちになりました。

枕のやわらかさと、かすかな石けんの匂と、目の中の小さな太陽が、おばさんとはとてもなつかしい。